

KR 14

KOBE-U, 1995-03

Khan Report: 14
KOBE UNIV, 1995-03

表題： どんなネットワークにしたい？ どんなユーザになりたい？
—— '94 ネットワーク・ユーザ・アンケートの集計報告 ——

著者： 金水 敏(神戸大学文学部)

目的： 1994年6月に神戸大学で実施された「ネットワーク利用に関するアンケート」の集計結果をまとめ、今後のネットワーク運用のための基本資料とする。

取扱： この文書は自由に配布することができる。

概要： 本レポートは次のような構成をとっている。

- 1 はじめに
アンケートが実施されるにいたった経緯、およびその目的について述べる。
- 2 実施方法など
アンケートの配布・回収の実態について述べる。
- 3 設問の内容
配布したアンケートの原文を掲示する。
- 4 集計結果と分析
 - 4.1 個人情報
回答者の身分・所属、ネットワーク歴等について分布を示す。
 - 4.2 新ネットワークについて
KHAN に関する回答者の知識を問うた設問のまとめ。
 - 4.3 ネットワーク利用の現状
回答者が現在ネットワークを利用しているかどうか、およびその利用形態、ネットワーク利用上での経験等についてのまとめ。
 - 4.4 ネットワーク・サービスへの希望
これからネットワークに期待するサービスについてのまとめ。
 - 4.5 ネットワーク運用へのご協力のお伺い
ネットワーク運用のヴォランティアへのお誘いに対する回答のまとめ。
 - 4.6 その他
自由記述の内容をまとめた。
- 5 さいごに
全ての関係者に対して謝辞を述べる。

1. はじめに

情報ネットワーク運用委員会(以下、KAC とする)では、1993年の発足以来、神戸大学の全構成員を対象とするアンケートの計画について話し合われてきた。その目的は、主として次の3点にまとめられる。

- ・新しい LAN(以下、KHAN とする)を広く全学にアピールする。
- ・KHAN の運用に必要なマン・パワーを掘り起こし、よりよい維持・運用のためのユーザの自助努力を促す。
- ・構成員のネットワーク・システムに関する認識の実態を知り、今後の広報活動の資料とする。

以上の目的にそったアンケートを実施するため、KAC 内の作業部会である「運用サービス問題検討小委員会」(以下、KACSRV とする)を中心に、内容、実施時期、実施方法等について話し合われた。

2. 実施方法など

1994年4月25日のKACSRV会議において、次のような実施方針が確認された。

- ・実施期日は6月中とする。
- ・内容は現在提出されている原案(金水作成)に小修正を加えたものとする。
- ・配布方法は、印刷版とメール版の2種類とする。印刷版は、各部局運用委員、情報処理教育担当教官にお願いするほか、各図書館カウンター、生協店舗に置いてもらう。メール版はセンターの全ユーザに送付する。いずれも再配布自由とし、自己増殖型の配布を期待する。
- ・回収は各部局運用委員、図書館の協力を得て、最終的に総合情報処理センターに集結する。
- ・集計・分析の結果は、何らかの形で公表する。

これに基づいて、6月に入って配布が開始された。印刷版については、6月7日に行われたKHAN運用説明会に集まった各部局の運用委員会に配布したほか、運用委員の出ていないインター・ナショナル・レジデンスや留学生センター等には学内便で配送した。総合情報処理センター(以下、IPC とする)本館・分館、生協のパソコン売り場等にも用紙を置いた。回収には用紙を置いた場所に回収箱を設置したほか、各部局については運用委員に一任した。配布の逆ルートで最終的にはIPCに集めることとした。また電子メール版は、IPCのメール管理者にお願いして、全ユーザに配送してもらった。さらに、IPCのFTPサイトにも置いた。

今回、配布先として手薄になったのは、次のような層である。これらの方々へのアプローチは今後の課題となろう。

- ・学部生
- ・職員
- ・附属小中学校(KHAN そのものも届いていない)
- ・非常勤講師

3. 設問の内容

配布したアンケートの内容は以下の通りである。これは電子メール版であるが、印刷版とは細かい体裁の違いを除けばまったく同内容である。

ネットワーク利用に関するアンケート

electric version: ftp://teabreak.kobe-u.ac.jp
/pub/KAC/kacbox/enquete.txt

1994.6.7

神戸大学情報ネットワーク運用委員会
委員長 蛭名邦禎 (EBINA, Kuniyoshi)
E-mail: ebina@kobe-u.ac.jp

ご承知の方も多いことと思いますが、このほど、情報基幹整備のための平成5年度特別補正予算により、神戸大学内の全部局をつなぐネットワーク・システムが敷設され、現在試験運用期間に入っております。

この新しいネットワーク・システムは、これからの神戸大学が高度な知的情報ステーションとして社会に貢献していくために必要不可欠な基盤となるはずのものですが、その能力を生かしきるためには、全学のユーザの力とアイデアを結集する必要があります。そのためのひとつのステップとして、現在の学内ネットワーク利用者、およびネットワークに関心をお持ちの皆様の現状やご希望の把握、マンパワーや有益なデータ等の発掘に努めたいと考え、我々情報ネットワーク運用委員会は、以下のようなアンケートを企画しました。

本アンケートは、学内の教員、職員、学生を問わず、すべての学内ネットワークのユーザと、ネットワークに関心をお持ちの方を対象とするものです。該当される方は、お忙しいところまことに恐れ入りますが、このアンケートにご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

本アンケートは、電子メールによるものと、紙面によるものの2種類を用意しております。ご希望で、どちらにお答えいただいても結構です。紙面版をご請求の方は、総合情報処理センター・高橋(内線・アドレスは下記)までご連絡をお願いいたします。

電子メールでお答えいただける方は、切り取り線以下の部分に直接書き込んで、7月15日までに

yuuko@teabreak.kobe-u.ac.jp

あてご返送下さい。

アンケート用紙・電子メール請求、電子メールでのアンケート回答、その他お問い合わせは下記までお願い致します。

総合情報処理センター・高橋由宇子
内線 2910
yuuko@teabreak.kobe-u.ac.jp

なお、このアンケート・メールは、1994年7月15日まで、神戸大学構成員に限り、複写・再配布は一切自由です。お答えいただけそうな方に、どしどしご転送くださいますようお願い申し上げます。

<< Cut here and send following enquete to yuuko@teabreak.kobe-u.ac.jp

1. あなたご自身に関する情報

1. あなたの身分は次のどれにあたりますか。該当するものに○をお付けください。
 - (a) 教官
 - (b) 職員(技官を含む)
 - (c) 学部生
 - (d) 大学院生 - 修士課程
 - (e) " " - 博士課程
 - (f) 研究生
 - (g) その他 →(具体的に) []

2. あなたのご所属はどちらですか。

所属 [] 学年または役職名 []

3. あなたの計算機利用歴・ネットワーク歴をお教え下さい。
 - (a) 計算機利用歴(大型、WS、パソコンを含む) [] 年
 - (b) ネットワーク歴 [] 年 (Internet, BITNET 等の学術・研究用ネットワーク及び NIFTY-serve, PC-VAN 等の商用ネットワークを含む)。
 現在利用中のネットワークの種類をお教え下さい。
 - i. Internet(junet, wide 等を含む)
 - ii. BITNET
 - iii. 学情 NET
 - iv. NIFTY-Serve
 - v. PC-VAN
 - vi. 日経 MIX
 - vii. その他 →
 具体的に、いくつでも []

2. 新ネットワークについて

1. あなたは、現在学内で、全部局を結ぶ新ネットワークが設置されたことをご存じですか。
 - (a) 知っている。
 - (b) 知らない。

2. この新ネットワークの愛称が、全学からの募集によって、「KHAN(カン)」

KR 14

KOBE-U, 1995-03

- (Kobe Hyper Academic Network)と決められたことをご存じですか。
- (a) 知っている。
 (b) 知らない。
3. このネットワークを利用すると、国内はもちろん、海外ともほとんど瞬時に電子メールがやりとりでき、国内外の計算機をリアルタイムで操作して、ソフトウェアを利用したり、データベースを検索したり、ファイルを高速転送したりできる(しかも、ほとんど無料)ということをご存じですか。
- (a) 知っている。
 (b) 知らない。
4. 平成 5 年度の神戸大学職員録から、電話番号の外に、電子メールのアドレスが掲載されていることをご存じですか。
- (a) 知っている。
 (b) 知らない。
5. 現在既存のネットワーク設備をご利用中の方も含めて、新しいネットワーク・サービスを利用してみたいと思いますか。
- (a) 思う。
 (b) 思わない。
 (c) どちらとも言えない。
6. 近い将来、電子メールのアドレスを取得したり、新ネットワークに機器を接続する計画をお持ちですか。
- (a) 電子メールのアドレスを取得しようと思っている。
 (b) 新たに機器を接続しようと思っている。→
 機器の種類は
 i. ワークステーション
 ii. パソコン
 iii. その他 → 具体的に []

3. 現在のネットワークの利用形態

1. あなたは、現在、学内ネットワークを利用なさっていますか。
- (a) していない。 → 4 節以下の設問にお答え下さい。
 (b) している。 → 以下の設問にお答え下さい。
2. あなたは、学内ネットワークをどのような機器からご使用になっていますか。該当するものに幾つでも ○ をお付け下さい。
- (a) 総合情報処理センター館内の端末から
 (b) 所属研究室等のワークステーション(パソコンの IP 接続を含む)から
 (c) 学内個人研究室のパソコン等から電話回線・専用回線を通して
 (d) 自宅等、学外から電話回線を通して
 (e) その他

3. あなたは、通常、ネットワークをどのような目的でご利用になっていま
すか。該当するものに幾つでも ○ をお付け下さい。

- (a) 電子メールの送受信 →
 i. 日本国内
 ii. 海外
 (b) ネットワーク・ニュースを読む
 (c) telnet, ftp, gopher, mosaic 等により学内外の計算機にア
クセスする。→
 i. 特定のソフトウェアやディスク空間など、計算機リソ
ースの利用
 ii. データベース・コーパス等の検索
 iii. フリーソフトウェア等のダウン/アップロード
 iv. その他 →
 具体的に []

4. あなたは、最近、平均してどれくらいの頻度でネットワークにアクセス
していますか。いちばん近い項目に ○ をつけて下さい。

- (a) ほとんど毎日
 (b) 週に 2, 3 回
 (c) 月に数回
 (d) 半年に数回
 (e) それ以下

5. 過去に、ネットワークを利用して、特に便利だと感じたこと、関心
・感激したことなどありましたでしょうか。ありましたら、お書き下さ
い。

6. 過去に、ネットワーク関係のことがらで特に困ったこと、忘れられない
トラブルなど、ありましたでしょうか。その時、どのようにしてそれを
解決されましたか。また、そのようなトラブルを回避したり軽症ですま
せるためには、どのような体制があればいいと思いますか。自由にお書
き下さい。

4. ネットワーク・サービスへのご希望

1. 将来、学内ネットワークに次のようなサービスが設けられるとしたら、
あなたはご利用になりたいと思いますか。利用したいと思うサービスに、
いくつでも ○ をお付け下さい。

- (a) 研究に有用な特定のソフトウェアや、高速 cpu, 大きなディ
スク空間等の計算機リソース。
→ もし具体的にご希望のソフトウェア/ハードウェアがありましたら、
お書き下さい。
[]
 (b) CD-ROM やディスク等による、辞典、辞書、データベース、
コーパス等の検索
→ もし具体的にご希望のデータがありましたら、お書き下さい。
(例、MEDLINE, オクスフォード英語辞書)

KR 14

KOBE-U, 1995-03

- (c) [] 学内外の図書館蔵書情報の検索
 (d) [] 日英・英日等機械翻訳サービス
 (e) [] 全学講義要項検索
 (f) [] 学内 BBS
 → 学内 BBS は、商用パソコン通信(Nifty-serve, PC-VAN, 日経 MIX 等)のようなサービスの学内版をイメージしていません。その中で特にやってほしいサービスが具体的にありましたら、お書き下さい。
 (例、ネットワーク関係のニュース・掲示板、学内の諸情報の掲示板、その他の呼掛け・募集情報、学術的内容の公開・非公開電子会議室等)
 []
 (g) [] 高品位(高密度・フルカラー等)プリンタによる印刷サービス
 (h) [] ネットワーク相談室(トラブル解決、接続の相談等)
 (i) [] 生協等への図書注文サービス
 (j) [] ファックス転送サービス
 (k) [] 利用目的・熟達度に応じた、各種講習会やきめ細かい手引書
 (l) [] その他
 →具体的に []

2. 上に挙げた項目にこだわらず、あなたが利用したくなるようなネットワークとはどういうものか、あるいはあなたにとってネットワークはどうあってほしいか、自由なアイデアをお書き下さい。

5. ネットワーク運用へのご協力のお伺い

ネットワークの能力を 100% 引き出すためには、ユーザ各位の積極的な協力体制がぜひとも必要です。もしあなたが、学内ネットワークに対して何か貢献できるとしたら、どのような事柄が考えられますか。まず労働力の面と、データベースやソフトウェアの公開など、情報提供の 2 点に分け、次の中で該当するものがありましたら、いくつでも ○ をお付け下さい。

1. 労働力の供与

(以下の項目について、あなたが学生である場合、内容によっては些少ながらアルバイト料をお出しできるものもありますが、基本的にはボランティアとお考え下さい)。

- (a) [] ネットワーク相談員(ユーザの質問に答えたり、適切な窓口を紹介する。)
 (b) [] ネットワーク監視要員(基幹ネットの信号の状態を点検したり、メール・サーバの管理を手伝う。)
 (c) [] ネットワーク講習会の講師
 → お得意の分野がありましたら、お書き下さい。
 (例、機器接続、海外へのアクセス等)
 []

- (d) [] ネットワーク利用手引書への寄稿
→ お得意の分野がありましたら、お書き下さい。
[]
- (e) [] 学内 BBS のオペレータ
→ お得意・ご希望の分野がありましたら、お書き下さい。
[]
- (f) [] その他
→ 具体的にお考えがありましたら、お書き下さい。
[]

2. データベース、ソフトウェア等公開

お手持ちの有用なデータベースやソフトウェアを公開されることも、ネットワークの付加価値を高める上で重要な貢献となります。総合情報処理センターやネットワーク内のサイトから学内外に向けて、現在公開中の、あるいは将来公開を計画されているようなデータベースやコーパス、あるいはパブリック・ドメイン、フリーソフトウェア等のソフトウェアがごありでしょうか(必ずしもオリジナルなものでなくても構いません)。たくさんおありの方は、代表的なもの一点についてお教え下さい。

- (a) [] 現在公開中
→ 名称、著作者、簡単な内容紹介等をお知らせ下さい。
i. 名称 []
ii. 著作者 []
iii. 内容 []
- (b) [] 将来、公開を計画中
→ 名称、著作者、簡単な内容紹介等をお知らせ下さい。
i. 名称 []
ii. 著作者 []
iii. 内容 []
3. その他、ネットワークを健全かつ効率的に運用していく上で、ユーザが貢献できることとして、どのようなことが考えられるでしょう。お考えがありましたら、自由にお書き下さい。

- この節にお答えいただいた方、恐れ入りますが、ご所属・お名前と電子メールのアドレスをお教え下さいませ。

ご所属 [] お名前 []
電子メール・アドレス []

6. その他

ネットワークに関する事で、ご感想、ご意見、ご希望、ご質問等何でも結構ですので、以下に自由にお書き下さい。

○以上でアンケートは終了です。ご協力まことにありがとうございました。

4. 集計結果と分析

最終的に、407 通のアンケートが回収された。集計作業には、全面的に IPC のご協力を得ることができた。実際には、職員の辻香織さんがほとんどの作業にあたった。以下に、適宜、簡単な分析を加えながら、集計結果を示す。

4-1 個人情報

〈Q1-1 「あなたの身分は次のどれにあたりますか。……」〉

〈Q1-2 「あなたのご所属はどちらですか」〉

部局・身分別に集計し、一覧表で示す。

所属	教官					学生				職員	その他	計
	教授	助教授	講師	助手	不詳	学部生	大学院生	院修生	院研究生			
文学部	6	1	1	3	1	0	6	4	0	0	0	22
大教セ	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
図書館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
発達	13	16	5	5	4	12	13	0	0	9	0	77
法学部	5	3	0	1	2	0	1	3	0	0	0	15
医学部	0	3	1	9	2	0	0	0	0	4	0	19
医短	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
国文	1	10	2	1	3	1	0	0	0	0	0	18
経営	4	5	1	0	2	2	0	0	0	2	0	16
国際協	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
経経研	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8
工学部	8	12	3	19	2	25	37	0	0	4	1	111
開発セ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
経済	5	4	1	1	2	7	1	0	0	0	0	21
理学部	7	5	1	3	0	7	4	0	0	1	0	28
農学部	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
留学セ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
六甲電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
自然科	0	0	0	2	0	0	0	10	4	0	0	16
生協	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
情処セ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
水質管	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3
低温セ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
計	(教官計)223					(学生計)140				24	20	407

〈Q1-3 あなたの計算機利用歴・ネットワーク歴をお教え下さい。〉
 計算機利用歴の平均は約 7.2 年であった。5 年区切りで度数分布を示す。

計算機利用歴分布 (* = 5人 端数は切り捨て)

0年または無記入	64	*****
0年を越え5年以下	144	*****
5年を越え10年以下	110	*****
10年を越え15年以下	39	*****
15年を越える	50	*****

ネットワーク歴の平均は約 1.6 年であった。上と同様に度数分布を示す。

ネットワーク利用歴分布 (* = 5人 端数は切り捨て)

0年または無記入	215	*****
0年を越え5年以下	158	*****
5年を越え10年以下	31	*****
10年を越え15年以下	1	
15年を越える	2	

計算機利用歴に比して、ネットワーク歴がかなり短いのは当然のことではあるが、特にネットワーク初心者が今回のアンケートに積極的に回答を寄せられた点に、ユーザの期待・意欲のほどが伺われる。

現在利用中のネットワークの種類は次のようである。

	internet	bitnet	sinet/nacsis	niftyserve	pc-van	mix	その他
教官	79	20	29	43	17	5	9
学生	65	3	3	16	3	1	3
その他	9	3	3	6	0	0	2
合計	153	26	35	65	20	6	15

4-2 新ネットワークについて

以下に、各設問の回答の度数と、百分率を示す。

〈Q2-1 新ネットワークの設置を知っていますか〉
 はい 275 (67%) いいえ 125 (30%)

〈Q2-2 新ネットワークの愛称「KHAN」を知っていますか〉
 はい 134 (32%) いいえ 266 (65%)

〈Q2-3 ネットワークの効能(電子メール、ファイル転送等)を知っていますか?〉
 はい 209 (51%) いいえ 188 (46%)

〈Q2-4 職員録に電子メールのアドレスが掲載されていることを知っていますか?〉
 はい 197 (48%) いいえ 203 (49%)

KR 14

KOBE-U, 1995-03

〈Q 2-5 新ネットワークを利用してみたいと思いますか〉
はい 323(80%) いいえ 12(2%) どちらでもない 55(14%)

〈Q 2-6 アドレス取得、機器接続の計画〉
(a)電子メールのアドレスを取得しようと思っている。 131(32%)
(b)新たに機器を接続しようと思っている。
i ワークステーション 45(11%)
ii パソコン 113(27%)
iii その他 4

4-3 ネットワーク利用の現状

〈Q 3-1 あなたは、現在、学内ネットワークを利用していますか〉
はい 130 いいえ 272

以下、本節では「はい」と答えた人についてさらに回答を求めている。

〈Q 3-2 ネットワーク利用の機器の形態〉
(a)総合情報処理センター館内の端末から 34
(b)研究室のWS、PCからIP接続で 110
(c)個人研究室等から電話回線・専用回線で 64
(d)自宅等、学内から電話回線で 28
(e)その他 6

〈Q 3-3 ネットワーク利用の目的〉
(a)電子メールの送受信 170
i. 日本国内 160
ii. 海外 101
(b)ネットワーク・ニュース 72
(c)学内外の他の計算機へのアクセス 284
i. 計算機リソースの利用 65
ii. データベース等の検索 32
iii. ソフトウェアのダウン/アップロード 72
iv. その他 11

〈Q 3-4 ネットワーク利用の頻度〉
* = 5人
(a)ほとんど毎日 112 *****
(b)週に2、3回 41 *****
(c)月に数回 29 *****
(d)半年に数回 5 *
(e)それ以下 14 **

ネットワークの既経験者は、アクセスがほとんど日課になっている人が多数を占めていることが分かる。

〈Q 3-5 ネットワークを利用して便利だと感じたこと〉
この設問は記述形式である。96件の回答があった。全体として目立ったの

は、e-mail の利点について触れたものが多かったことで、44 件ののぼった。
以下のようなものである。

- ・知人が米国へ留学した際、e-mail で時差に関係なく高速に意見交換ができた。(工学部・教授)
- ・e-mail は、電話ほど速すぎず、侵略的でなく、手紙ほど遅すぎないので、時間的な余裕が適切である。(国際文化学部・助教授)
- ・著名なアメリカの教授と e-mail で交信ができた。(国際文化学部・助教授)
- ・e-mail による論文原稿送付。(理学部・助教授)
- ・e-mail による情報交換が大変速くて簡単にでき、情報がそのままパソコンにとりこめて使えること。(理学部・助教授)
- ・アメリカにいる友人に、英文の論文の添削をしてもらった。海外出張の時に、日本にアクセスし、重要なメールを読むことができた。(工学部・助手)
- ・CD-ROMの注文に際し、FAX より e-mail の方が親身な対応が得られた。(文学部・助教授)
- ・学会の専門別研究会入会、案内等をメーリングリストを使って行うようになり、便利になった。(発達科学部・助手)
- ・ネットワークを用いた迅速な会議等の設定及びネットワーク会議による意見収集。(工学部・教授)
- ・瞬時にして作成ファイルが相手に送付できるのに驚いた。メール到着を教えてくれて便利。(生協・職員)

ニュース・グループや ftp による高速なファイル転送の利点を挙げるものもあった。

- ・海外にいながら世界中のいろいろな研究期間、企業のコンピュータにアクセスでき、必要なデータ・ソフトウェアが入手できることに感心した。(経済学部・助教授)
- ・研究課題、周辺、パソコンの性能情報について、ニュースグループに加入して問題解決に有力な情報を得た。ftp 等では、必要を感じた時に、即プログラム検索、入手して試せるので、思考が中断することなく作業がすすめられて助かる。(農学部・助教授)
- ・パソコン感覚で高速マシンを利用できること。ftp などでパソコン利用環境を充実できること。ネットワークニュースなどで新しい情報が得られること。論文投稿ができること。(理学部・助手)
- ・ftp で海外の techreport が取り寄せられるのが便利。(工学部・院修士)
- ・ネットワークを使えば、フリーウェアをフロッピーディスクに落とす手間無しで入手できることに感激した。(工学部・院修士)
- ・Internet に触れると、目の前の WS が世界に接続されている事実ショックを感じる。Netnews、e-mail は便利だと思う。(工学部・院修士)
- ・ニュースを読み、欲しい文献やソフトなどが研究室にいながら得ることができる点。(工学部・院修士)
- ・e-mail が便利。ニュースを読むのもおもしろい。(工学部・学部生)

他の計算機へのアクセス、WWW/mosaic 等のオンライン・データベースについて触れたものもあった。

- ・ 図書検索。海外との e-mail。(文学部・助教授)
- ・ ほかの研究室における大容量、高速 WS の利用。(自然科学研究科・院博士)
- ・ 自分の研究室からセンターのマシンへ大量の画像データを送って計算をさせたとき。(自然科学研究所科・院博士)
- ・ どこにいても自分の WS 環境が使える。……mosaic によるネットリソースの共有。(工学部・院修士)
- ・ mosaic で一晩中遊んだこと。(自然科学研究科・研究生)

利点を挙げた方は、理系、特に助手・院生など若い人々が多かった。これらの層に確実にネットワークが根付いていることが分かる。「ネットワークなしではやっていけない」という意見も数人見られた。

《Q3-6 ネットワークに関するトラブルの経験》

これも記述項目である。69 件の書き込みがあった。もっとも多かったのが、システムのダウン(停止)に関連するものである。

- ・ サービスの停止が頻繁にあること。(経済経営研究所・教授)
- ・ 学科のメール・サーバーのダウン。学内電話網とネットワーク網整備の足並みがそろっていない。(工学部・教授)
- ・ とどろきダウンするのでメールがあったのかなかったのかわからないので困る。(工学部・教授)
- ・ jasmin を e-mail に使っているが、不通なのでセンターに聞くと、「スイッチを切っていました。」といわれたことがある。24 時間体制にしてほしい。
- ・ 途中で警告なしに回線が切断され、転送していたファイルにダメージがあった。(文学部・助教授)
- ・ ネットワークのダウンの回復をなるべくはやく行われることを希望する。(工学部・助手)
- ・ ネットワークが、何かの発生で、外部とつながらなかつたりする場合、連絡を徹底してまわして欲しい。(自然科学研究科・院博士)
- ・ 時々サーバが落ちる。原因が曖昧なので解決できるものが欲しい。(相談所など。)(工学部・院修士)
- ・ ネットワーク全体がダウンしてしまうようなことはなく、部分的なダウンで済むようになればいいと思う。(工学部・院修士)

漢字コードの不都合や、文字化けに関連するものも多数見られた。

- ・ 漢字コードがうまくあわない。(経済経営研究所・助教授)
- ・ 文字化けをする。MAC の半角カタカナが e-mail で遅れない。(工学部・助教授)
- ・ e-mail の送受信で、マシンによって文字コードがことなったり、エディタの使い方がことなってきたり。(自然科学研究科・院博士)
- ・ S201 でセンターに漢字でメールが送れない。(工学部・学部生)
- ・ 海外の非漢字端末で日本語の e-mail を送る方法がわからない。(農学部)

・助教授)

トラブルの解決のための窓口を求める声も多かった。

- ・知識レベルの低い者の質問でも答えてもらえる相談所のようなものがあればよい。(工学部・教授)
- ・on line help サービスや、Q&A コーナーを設けるなど、できるだけ情報を集め、皆で問題を解決していくことが大事。(経済学部・助教授)
- ・個別の質問形式で、回答を提供してくれるような、専門知識を持った者が身近にいて欲しい。
- ・ネットワークアクセスにおいて、ソフト的接続が大変。初期設定を出張サービスで設定してくれるような人を確保したり、初心者向けのマニュアル作りが必要。
- ・今までに生じた Q&A をだれでも参照できるデータベースにして欲しい。

(工学部・職員)

- ・e-mail を使用するまでの手続きがわからず不便。(経営学部・講師)
- ・PC ユーザ初心者むけの相談窓口が欲しい。(法学部・助手)
- ・神戸大学の LAN の仕組みを説明してくれる所がなかなか見つからなかった。(理学部・助手)

次のように、WS の管理者の立場からの声があった。

- ・管理が大変。(国際文化学部・教授)
- ・WS に新しい OS をのせてメールを設定しようとしたが、うまくいかなかった。研究室の先輩に聞いた。(工学部・学部生)
- ・一部の責任者だけが大変そうなのが気の毒。多くの人が助け合う方向にいかざるをえない体制をとるべきだ。(発達科学部・助手)

電子メールには利点が多いが、次のような声もある。

- ・どうしてもよいジャンク・メールがくる。毎日ネットワークにアクセスする者だという前提でどんどん話もちこまれる。(国際文化学部・講師)

4-4 ネットワーク・サービスへの希望

《Q 4-1 将来、学内ネットワークで利用したいと思うサービス》アンケート用紙に、次のような候補を挙げ、好きなだけチェックしてもらった。

- (a) 研究に有用な特定のソフトウェアや、高速 cpu, 大きなディスク空間等の計算機リソース。
- (b) CD-ROM やディスク等による、辞典、辞書、データベース、コーパス等の検索
- (c) 学内外の図書館蔵書情報の検索
- (d) 日英・英日等機械翻訳サービス
- (e) 全学講義要項検索
- (f) 学内 BBS

KR 14

KOBÉ-U, 1995-03

- (g) 高品位(高密度・フルカラー等)プリンタによる印刷サービス
- (h) ネットワーク相談室(トラブル解決, 接続の相談等)
- (i) 生協等への図書注文サービス
- (j) ファックス転送サービス
- (k) 利用目的・熟達度に応じた, 各種講習会やきめ細かい手引書
- (l) その他

以下に、それぞれの度数をグラフ化して示す。(* = 5人。端数は切り捨て。)

```

a 184 *****
b 188 *****
c 280 *****
d 164 *****
e 74 *****
f 155 *****
g 166 *****
h 156 *****
i 186 *****
j 156 *****
k 128 *****
l 16 *****

```

どの項目もまんべんなく得点を集めている中で、図書館情報の検索に飛び抜けて高い期待が集まっていることが注目される。「全学講義要項検索」の得点が低かったのは、回答者に学部生が少なかったせいであろう。

〈Q4-2 ネットワーク・サービスに望むこと、アイデア〉

「利用したくなるネットワーク、ネットワークはどうあってほしいか、そのアイデア」について、自由に記述してもらった。

まず、事務処理への利用を望む意見が目立った。

- ・学内各種の書類・書式をハードコピーでやりとりしている現状を改めてほしい。(理学部・教授)
- ・電話の代わり。学内の事務連絡をすべて e-mail にしてほしい。学生への連絡にも、電子掲示板の形で対応して欲しい。(工学部・助手)
- ・現在文書として出回っている書類をほとんどすべて e-mail でのやりとりにできればよい。(工学部・助手)
- ・学内、学部内の庶務情報の管理。(経営学部・教官)
- ・事務処理にも力を入れて欲しい。そのためにも十分なセキュリティ管理が欲しい。(附属図書館・職員)

学生を含めた自由なコミュニケーション媒体を望む意見も強い。

- ・計算機利用で課金するのをやめる。学生が自由に触れることが必要。機器を管理する発想をすすめる。(工学部・助教授)(発達科学部・助手)
- ・学内外において、学生相互、教官相互、学生-教官の電子メールによるコミュニケーションを可能にして欲しい。(大学教育センター・助教授)

- ・もっと広く門戸を解放して学生や留学生たちにも使えるようなネットワークにして欲しい。(水質管理センター・助手)
- ・学内のあらゆる領域と随時情報交換が可能であること。利用したいと思う人が気軽に自由に安く利用できること。(文学部・院修士)
- ・学生が利用できる端末の数が少ない。(法学部・院修士)

高度な計算機リソース、各種周辺機器、ソフトウェアの充実を望む意見をまとめてみよう。

- ・日英、英日機械翻訳サービスが欲しい。(国際協力研究科・助教授)
- ・画像情報、音声情報を有効に生かしたものの。(工学部・講師)
- ・モノクロ高密度(1200~1600dpi)タイプセッタ、及び高品位カラープリンタが学内で利用できれば嬉しい。(発達科学部・講師)
- ・全体に response のよいネットワーク。(理学部・助手)
- ・研究用に、無料の CPU が豊富であること。(工学部・院修士)
- ・転送スピードがいまの 10 倍速いネットワーク。携帯電話が携帯無線で接続できれば良い。(工学部・学部生)
- ・丈夫なものであってほしい。(工学部・院修士)
- ・日本語、ハングル、中国語、タイ語等、諸語の文字や音声記号が送れるようになってほしい。(国際文化学部・講師)

これ以外にも、「安い、速い、簡単」「自由なアクセス」を挙げる声が非常に多かった。

大学の特性を生かした、情報提供を求める声もある。

- ・図書館の文献複写の電子版。教材として活用できるマルチメディア・データベース。検索可能な教官の研究発表項目とその発表原稿の電子配布サービス。(農学部・助教授)
- ・図書館図書がネットワークで ID を用いて本の予約ができるとういと思う。(文学部・院博士)
- ・レポートの中で抱く素朴な疑問をたずねられる場や専門用語のデータベースが欲しい。(理学部・院修士)
- ・図書館の文献コピーが e-mail でできるようにして欲しい。(自然科学研究科・研究生)
- ・大学は各種エキスパートの集まりであるから、その特徴を生かした各種のフォーラム(例えば、法律相談、政治経済、医学相談など)をつくり、情報交換、情報収集を行えると良い。(医学部・職員)
- ・生協のプレイガイドで扱っているホテル、民宿の空室等の情報提供、各種チケット注文等のサービスを受けられるようにして欲しい。(医療技術短大・助教授)
- ・生協の立場からは、組合員の皆様への多方面にわたる情報提供を行いたいし、一言カード集などを、ネットワーク上で受け付け、受け答えを行いたい。(生協・職員)
- ・ニュース等が不特定多数の人が気楽に見られるような設備があると嬉しい。画面にしたがって、画面上のタッチパネルを押しただけで操作できるようなものが食堂、学生会館、図書館などにあればよいと思う。(工学部・院修士)

KR 14

KOBE-U, 1995-03

もちろん、初心者への対応やきめ細かいユーザ・サポートを求める意見もある。

- ・パソコンを利用したことのない者がネットワークを利用したいと思えるようなデモ。(国際協力研究科・助教授)
- ・step-by-step の説明(特に入門時)が欲しい。(文学部・助教授)
- ・ネットワーク運用のノウハウを説明会を開いて教えて欲しい。コンサルタントを常備配備して欲しい。(留学生センター・講師)
- ・利用方法を調べることを容易に可能とする環境が整っていること。常に相談員を待機させておくということではなく、ネットワーク、その他について調べる方法(そのことに詳しい人や解説書)を紹介するなどの案内板が必要。(理学部・助手)

4-5 ネットワーク運用へのご協力のお伺い

ネットワーク運用への協力の意志をユーザに問うた設問で、「労働力の供与」「データベース、ソフトウェア等公開」についてまず聞いた。項目別に、度数を示す。

〈Q5-1 労働力の供与〉

(a) ネットワーク相談員	28
(b) ネットワーク監視要員	11
(c) ネットワーク講習会の講師	5
(d) ネットワーク利用手引き書への寄稿	10
(e) 学内 BBS のオペレータ	4
(f) その他	12

〈Q5-2 データベース、ソフトウェア等公開〉

(a) 現在公開中のもの	11
(b) 将来、公開を計画中	14

具体的内容については、別のレポートや WWW 等で詳しく報告する予定である。

〈Q5-3 ユーザの貢献のアイデア〉

「ネットワークを運営していく上で、ユーザが貢献できること」という設問で、自由に記述してもらった。順不同で挙げる。

- ・同じ過ちを後の人が繰り返さないための、失敗談レポートの提出。(農学部・助教授)
- ・せめて「してはいけないこと3箇条」のようなものを作り、ネットワークに負担をかけすぎないように初心者を指導する。
- ・ボランティアの間よりも、専門家が必要なのは。(自然科学研究科・院博士)
- ・セキュリティについて、ユーザーの意識を高めることが必要。ユーザーは、システムが不完全であることを知り、トラブル等の報告をきちんとする。(工学部・院修士)
- ・詳しいことはわかりませんが、協力できることがあれば手伝います。(工

学部・院修士)

- ・データ入力の手伝い。ビラはりの手伝い。イデオログや教育者が必要。手続きが容易にできるように学部学科ごとにユーザが組織を作り、自己管理をしていくようにする。(発達科学部・院修士)

4-6 その他

〈Q6 ネットワークに関することで、ご感想、ご意見、ご希望、ご質問等何でも結構ですので、以下に自由にお書き下さい。〉

71 件の書き込みの中で、機器の初期導入・初心者への手引き書、講習会等を希望する意見が多数を占めた(25 件)。一層の広報活動、啓蒙活動が求められていると言える。また、次のような声もあった。

- ・現在研究室にある機械で、基本的な使用ができるところまでの準備とネットワークを技術的に代行していただける補助業務が得られればと思う。(発達科学部・教授)

ことに、アンケートの問いになかった経費面での質問が見られたので挙げておく。

- ・ネットワークはほとんど無料とあるが、メンテ等将来の各経費が気になる。(経済学部・教授)
- ・利用にあたり、初期導入費、維持経費についての問いが全くないのはいかがなものか。(文学部・教授)
- ・初期導入時に、何が必要でいくらかかるのか、月々いくらかかるのか、自宅からの安価なアクセスは可能か、といった情報を早急に公開できると良い。(文学部・助教授)

事務処理への利用を望む声がこの欄にもあった(5 件)。

次のように、「ネットワーク僻地」の解消を望む声も目立った。

- ・薬剤部、薬務室、医薬品情報室及び病棟地下の薬品研究室に光ファイバケーブルを設置して欲しい。(医学部・助教授)
- ・旧教養部学舎に研究室のある理・工・発達のスタッフは、多くが今回のネットワーク計画から除外されている。早急に対策を要望する。(理学部・助教授)
- ・附属小学校の教官室にはネットワークを利用するための機器がない。設備を整えば利用される教官も多いのではないのでしょうか。(発達科学部・教官)
- ・学内のほとんどのマシンがネームサーバに登録されていないという現状を解消して欲しい。(自然科学部研究科・院博士)
- ・文学部にも LAN を実用化して欲しい。WS も欲しい。(文学部・院博士)

5. さいごに

十分な準備も整わないうちに実施された今回のユーザ・アンケートであったが、構成員の熱い期待に支えられて、有意義な結果を得ることができた。このアンケートが今後のネットワーク運用に有意義に生かされるであろうことは疑いない。

最後に、この場をお借りして、アンケートにご協力いただきましたすべての皆様、配布・集計の労をとっていただいた IPC 職員の方々、ことに集計作業の大部分をこなされた辻香織さんに厚くお礼を申し上げます。

なお、この報告でさらに詳しく知りたい点、割愛したご意見等についてご質問、ご指摘、ご要望等ありましたら、

netoffice@kobe-u.ac.jp
までお寄せください。

著者の連絡先：

金水 敏 KINSUI, Satoshi
神戸大学 文学部文学科
Department of Letters, Kobe University
E-mail: kinsui@icluna.kobe-u.ac.jp